

新型インフルエンザワクチンに対する 日本小児科学会の考え方

岡山大学大学院小児科学
日本小児感染症学会理事長

森島恒雄

今回の新型インフルエンザワクチン意見交換会 にむけての日本小児科学会の取り組み

- 新型インフルエンザワクチン接種対象者についての緊急アンケート調査

対象：日本小児科学会予防接種・感染対策委員会 理事、委員
日本小児感染症学会 理事、評議員

- 分科会への「ハイリスク児」把握のための緊急調査

対象：分科会会長へのハイリスク児の実数把握のための調査依頼

接種対象者（日本小児科学会）

- 小児（一部成人を含む）の中で、基礎疾患を有する患者（詳細は別紙） — 推薦順位は最も高かった —
- 1歳から6歳（小学校就学前）の中で、接種を希望する子ども
- 0歳児の保護者
- 小学生・中学生・高校生への接種：
ワクチン供給が限られる現状では、推薦順位は高くなかった。

分科会名	疾患名	患者数
日本未熟児新生児学会	1歳以上の長期入院児、1歳以上5歳未満の早産時の慢性肺疾患患者など	小計 11,500
日本小児循環器学会	先天性心疾患など	小計 152,000
日本小児神経学会	脳性麻痺(特に、慢性肺疾患を持つ患児) 難治性てんかんなど	小計 16,000
日本小児血液学会	造血細胞移植後の患者など	小計 2,800
日本小児アレルギー学会	喘息中等症から重症など	小計 220,000
日本先天代謝異常学会	アミノ酸・尿素サイクル異常・有機酸代謝異常・脂肪酸代謝異常など	小計 4,000
日本小児腎臓病学会	末期腎不全患者(血液透析、腹膜透析患者)、腎移植患者(免疫抑制療法下)など	小計 1,300
日本小児内分泌学会	糖尿病・下垂体機能不全など	小計 13,600
日本小児感染症学会	重症感染症後のフォローアップ中の児	小計 12,000
日本小児呼吸器疾患学会	酸素吸入や人工換気療法を必要とする慢性呼吸障害 慢性肺疾患、先天性肺疾患、間質性肺炎など	小計 4,000
日本小児栄養消化器肝臓学	消化管・栄養・肝臓疾患 潰瘍性大腸炎・クローン病・胆道閉鎖症葛西術後・肝移植術後など	小計 12,100
日本小児遺伝学会	染色体異常症(15歳まで)	小計 150,000
日本小児精神神経学会	重症心身障害者 乳児院・児童養護施設など入所の子どもたちなど 病児・病後児保育施設従事する看護師、保育、児童養護施設職員	小計 87,500
日本小児リウマチ学会	免疫抑制状態にある児	小計 3,000
日本小児がん学会	小児がん	小計 11,000

接種対象者数(推定)

- 小児の基礎疾患を有する児: 約80-100万人
- 1-6歳の幼児: 約700万人
(350万人分)
- 0歳児の保護者 約200万人

以上で 約 650 万人

新型インフルエンザワクチン実施に際して重要な事項

- ワクチン接種によっても、必ずしも感染や発病を防げない場合があることを伝える。
- 保護者から同意を得られた希望者を対象とする。
- 任意接種ではなく、定期接種2類または臨時接種の枠組みで対応していただきたい。
- 海外のワクチン導入に際して、小児への使用は、あくまで臨床試験による安全性・有効性が確認された後に使用していくことを要望したい。